

集解、鶴類鳴似春令而微小、頭蒼黑頰白、眼後有黑條背青黑翅黑俱無斑紋、腹白胸黑嘴亦蒼黑尾短略黑脰黃青而細長、百千成群飛鳴呼侶常居江海川澤之邊、冬月最多故歌人詠寒夜之悲鳴也。其味最美而供上饌通俗以形味之相似爲鳴之種類亦可也、一種有頭背翅俱黑腹白尾黑似燕有岐或如飛魚之尾者常群飛于江上身輕翔翔如流甚迅疾如不能見亦稱千鳥播之海上遠之江中每多有之剪紙作片以擲于彼則喜飛而弄之其氣味未詳。

肉氣味甘溫無毒主治能補氣血

〔和漢三才圖會四十〕水禽〔鶴音〕

千鳥俗萬葉集爲乳鳥○申略

凡鶴種類甚多有四十品云皆有少異蓋諸鳥脚三指皆有前杜鵑三指前二後一鶴四指前三後一唯此二物異他鳥矣

〔飼籠鳥十四〕千鳥歌 古歌に千鳥と詠るは諸鳥の群を指して云又川風寒み千鳥鳴くなりとよみしは江河の鳥を云といふ説あれども古人は其鳥の事にあづからず只意を寄るのみなり又鶴の字を用るは今之江河の千鳥を云物なり此鳥の水邊を行歩する事其波の去來に隨て歩むより出たるなり俗に是を千鳥歩みと云も此鳥の行歩より出たる語なり鶴の字は字書に荒鳥又飛鳥とありて此鳥の名とするに明しがたし又冬燕に當つこれも據なし則鶴鶴の一種なるべし諸州とも海邊及池沼の邊に來る其形白鶴鶴に似て尤も大に背上は灰色にて腹は白し尾短く背黒く細長し足は至て高く其歩む事人の行歩を移すが如し冬夜飛て啼く甚寒鄉の意ありて靜なり五月に水上の藻中に巣を作りて卵をなす雛を取て虫飼にて飼ふべし折々聲を出すことの水邊にて鳴がごとし常に片足を擧て獨足鳥のごとし飼法虫飼にて鶴鶴の類のごとし

〔食物和歌本草二〕鶴

チドリ